

大阪上本町駅(近鉄難波線・大阪線)③

上方落語の祖・米沢彦八ゆかりの地へ

谷町九丁目駅(地下鉄谷町線・千日前線)

「大阪あそ歩マップ集」
その1 No.050

近鉄大阪上本町駅

①高津宮

社伝によれば、貞観8年(866)に清和天皇の勅命で難波高津宮の遺跡が探索され、その地に祀られたことがはじまりです。その後、秀吉の大坂築城によって現地に遷座しました。難波高津宮に遷都した仁徳天皇を主祭神としています。

②「高津の富」

高津宮は落語「高津の富」に登場します。その日暮らしの主人公が「鳥取の豪商」と嘘をついて旅館で豪遊して、支払いを迫られると宿の主人に「2万両の取引に来た」「漬物石は千両箱だ」と大嘘で煙に巻いていましたが、主人は「運試しに」と高津宮の富札を買わせ、主人公は泣く泣く購入して、勢いで「当選したら半分やる!」と約束しました。いざ高津宮で富札の抽選が始まると、なんと主人公の富札が一番(1000両)を当てる。主人公は驚愕して宿に戻って布団をかぶって寝ていると、やがて当選を知った主人が狂喜乱舞しながら「半分の500両を下さい!」と下駄を履いたまま枕元へ。主人公は「人の寝間に下駄を履いて来るとは!」と怒りますが、主人が「申し訳ない!とりあえず当選した祝いに酒を」と布団をめくると、主人公は草履を履いていた…というオチです。

③五代目桂文枝之碑

六代目笑福亭松鶴、三代目桂米朝、三代目桂春団治とともに「上方落語の四天王」と称された五代目桂文枝の生涯最後の口演は、

平成17年(2005)1月10日の高津宮での「高津の富」でした。そこで翌年に三代目桂春団治の揮毫で当碑が建立されました。



④高津の富亭

「高津の富」の由縁などから、地域寄席の場所としてつくられました。定期的に寄席が開催されて、地元住民に愛されています。

⑤生國魂神社

生國魂神社は、社伝によれば神武天皇が東征で難波津に着いた際に生島大神・足島大神を祀ったのが創始と伝えられています。豊臣秀吉が大坂築城の際に現地に遷されました。

⑥米沢彦八像

上方落語の祖・米沢彦八は生國魂神社の境内で「当世仕方物真似」の興行を催しました。彦八の様子を描いた挿絵によると、立烏帽子、大黒頭巾、編み笠、湯呑茶碗などが描かれており、それらを駆使して公家や大名の立ち振る舞いをおもしろおかしく演じました。江戸や京都ではできない、町人のまぢ・大坂らしい反権力の笑いであったようです。当碑は上方落語協会が平成2年(1990)に建立。毎年9月には上方落語ファンへの感謝デーとして上方落語家がさまざまな催しを繰り広げる「彦八まつり」が実施されています。



地下鉄谷町九丁目駅

